カラスフォトコンテストの開催について

貞國利夫 *

カラスの企画展実施にあたり

カラスフォトコンテストについて紹介する前に、まずカラスの企画展を実施するに至った経緯を紹介します。

カラスと聞けば、だれもがその姿を思い浮かべられるほど、私たち人間と最も関係の深い野生動物の一つです。「カラスのイメージは？」と聞くと、「ゴミを漁って散らかす」「狂暴で襲ってきて怖い」という回答を聞くことが多いように感じます。もちろん、それもカラスの行動の一面ではありますが、そこにはれっきとした理由があります。例えば、身近に棲むカラスはハシボソガラスとハシブトガラスの２種類です。一般に人を襲うといわれているのはハシブトガラスだけで、ハシボソガラスはまず襲いません。また、ハシブトガラスが人を襲うのは子育ての時期限定で、自分の子どもを守るために巣の近くから人を「追い払おう」としているだけです。人間はカラスよりも体の大きな生き物なので、下手すると自分自身が怪我をして、命を落としてしまう可能性もあります。カラスもなるべくなら攻撃したくないのです。このように、カラスにも事情があって行動していることが分かるかと思います。

都市部、郊外に限らず人間が生活していく上で、カラスとの付き合いは必ず出てきます。ゴミ出しの場合、管理が行き届いていない場所はカラスに荒らされてしまいます。他にも、カラスがねぐら（カラスが寝る場所のこと）に入っていく前に、付近の電線や街路樹にずらっと並ぶ際は、騒音や糞害が発生する場合があります。

そこで、釧路を中心としたカラスの暮らしぶりを紹介し、来館した方が正しい知識を学んでもらうことで、人とカラスがお互いに良い関係になってくれればという意図から、この展示を企画しました。

企画展関連行事として

企画展は、はく製や写真パネル、動画、カラス質問コーナーなど様々な方法でカラスの暮らしぶりについて紹介しました。関連行事として講座「カラスマスターへの道」、カラスの講演会、そして市民参加型のカラスフォトコンテストを実施しました。

カラスは街から郊外までどこでも見かけるため、シャッターチャンスは多い生き物です。しかし、いわゆるカメラマンの対象として、あえてカラスを撮影する人は少ないと思われます。その理由として考えられるのは、「色が真っ黒できれいじゃない」「どこにでもいて珍しくないから」など、わざわざ目を向ける理由が少ないからかもしれません。しかし実際には、色合いも黒だけではなく、光の加減で緑や青紫色にみえてとても綺麗ですし、ありふれている存在だからこそ、可愛らしい表情や興味深い行動をシャッターにおさめるチャンスが多いと思います。私は普段からカラスを観察・撮影していますが、未だに新しい姿を発見することがあり、カラスは奥が深いと感じています。

フォトコンテストの募集をはじめた当初は、コンテストとして成り立つほどの投稿が来るのか不安でした。しかし、徐々に投稿数が増えていき、企画展示室に設置していたフォトコンテスト用のボードが、投稿作品で少しずつ埋まるようになってきました。その展示作品を見た人がまた投稿するなどして、たくさんの作品が集まりました。数十点集まれば良いと思っていましたが、最終的には107点の作品が集まり、どの作品もカラスの暮らしぶりを上手に捉えていて、投稿作品が届くのが楽しみになっていました。コンテストでは、５つの賞を設けて作品の中から審査しました。ここでは、受賞作品以外の中から、カラスの暮らしぶりを捉えた様子をいくつか紹介いたします。

＊釧路市立博物館

投稿名：藤井薫
タイトル：３種のカラス
撮影場所：別海町野付半島
撮影日：2008年12月
コメント：左から　ワタリガラス　ハシブトガラス　ハシボソガラス
【企画者より】冬は餌が乏しいため、カラスたちにとっても、生きていく上で最も厳しい季節です。浜辺に打ちあがった海獣類は貴重な資源です。動物の世界において、獲物にありつこうとする力関係は、体の大きさ順であることが多いです。この写真は、左から体の大きい順になっており、それがよく分かる写真です。

投稿名：三船昭浩
タイトル：ボール遊び。
撮影場所：釧路市の釧路川左岸
撮影日：7月18日
コメント：１羽のカラスが転がって居たゴルフボールを２羽のカラスが交互にくわえて遊んで居ました。
【企画者より】カラスは遊び行動をする鳥です。電線に逆さまにぶら下がる、風に乗りながら棒の先端にどれだけ長く止まれるかを競う、お気に入りのものを隠すなど、様々な行動をします。ゴルフボールはちょうどよい大きさなのか、たまにくわえている姿を見かけますが、その様子がうまく捉えられています。

投稿名：じんくん
タイトル：青いリボン
撮影場所：北海道根室市
撮影日：2019年7月
コメント：落ちている紐、鳥には“凶器”
【企画者より】左足に青いビニール紐が巻きついています。人間による野生動物への影響は様々ですが、身近に棲むカラスもその例外ではありません。それを考えさせられる一枚だと思います。

このように、カラスの様々な写真がたくさんの方から投稿されました。実際に投稿された方から、このコンテストをきっかけに、カラスに対する意識が変わった、目を向けることが多くなったなど、嬉しいコメントも頂きました。皆さんも、この機会にカラスの撮影にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。